

特別講演 2

「慢性咳嗽診療の進歩」

国立病院機構七尾病院 名誉院長

藤村 正樹 先生

我が国では、咳喘息（乾性咳嗽）、アトピー咳嗽（乾性咳嗽）副鼻腔気管支症候群（湿性咳嗽）が慢性咳嗽の三大原因疾患である。その他、頻度は低いが、胃食道逆流性（乾性咳嗽）、アレルギー性気管支肺真菌症（湿性咳嗽）、気管支漏（湿性咳嗽）などがある。

慢性咳嗽の原因疾患は治療的に診断されている。この30年間の咳嗽研究によって、それぞれの原因疾患の病態が解明されてきた。そこで我々は、それぞれの病態を検査によって検証して客観的に診断する病態的診断法を開発して、2012年から七尾病院でルーチン化しており、その診断成功率は99.0%、治療成功率（咳嗽消失率）は97.3%だった。

咳喘息とアトピー咳嗽の基本病態はそれぞれ、生理学的には気管支平滑筋収縮に対する咳反応性の亢進（平滑筋咳過敏症）と咳受容体感受性の亢進（上皮咳過敏症）、病理学的には中枢気道から末梢気道までの広範な好酸球性炎症と中枢気道に局限した好酸球性炎症である。